

理解度&釣れる度100%

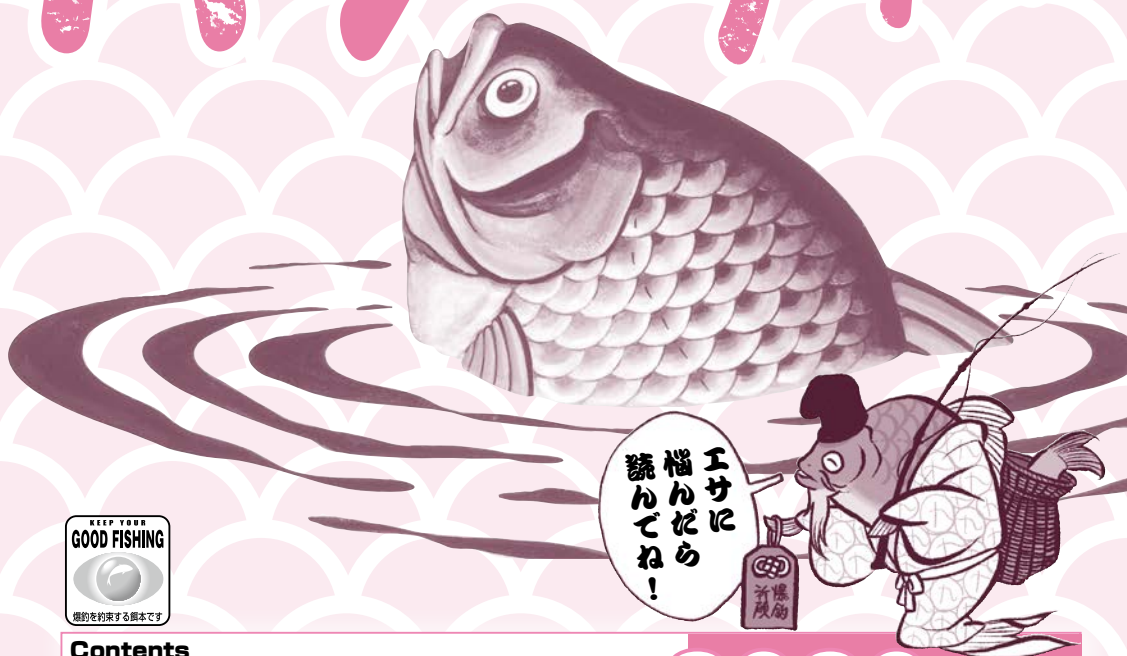
丸

マルキュー

優良 餌本



パワーエサ グック



Contents

- 02 ウドンセットの浅ダナ釣り
- 08 ウドンセットのチョーチン釣り
- 14 段差の底釣り
- 20 バランスの底釣り
- 26 ウドンセットの沖宙釣り
- 29 グルテンセットのチョーチン釣り
- 32 必釣の定番ブレンド

2020 春 冬号

HERA BAIT POWER BOOK

ウドンセットの浅ダナ釣りは、寒い時期の食い渋り対策で始まった釣り方ですが、いまや大会や例会などで食い渋りを打開するため、1年中出番のある釣り方です。

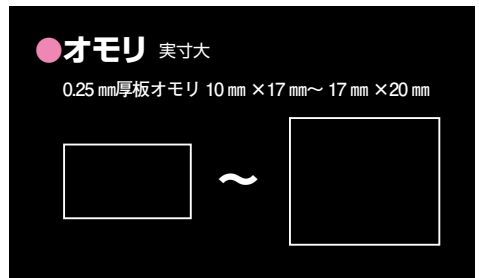
晩秋から春先になれば、一番アタリがしやすい釣り方でもあることから、多くの釣り人がいろいろ研究しているので、基本的なバラケを持たせてくわせエサを食わせる釣り方だけでなく、抜きセツトやちよい持たせなど、派生したバリエーションも豊富です。

釣果報告や例会などで上位に入った人が「今日は抜きで釣りました」「抜きのほうがアタリました」などとコメントすることがあります。ただ、結果的には、抜きで釣れたとしても1日中

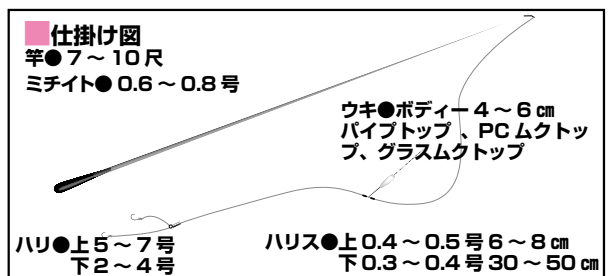
同じ釣り方で釣れるわけではありません。ですから、基本の釣り方から始めて、そこから釣りを変化させていく必要があります。

基本の釣り方とは、バラケエサをしつかり付けてウキのトップ先端までナジませ、タナへしつかりエサを届けて釣る釣り方です。エサ打ちを続けると徐々にヘラブナが近づいてきて、バラけた粒子を吸うときにくわせエサも吸うので、それがアタリになるのです。

バラケを持たせる釣り方で釣れるときは、それなりに食い気があるときなので、バラケエサを食うこともあります。それだけエサに近づくのですから、下ハリスも短くなります。注意したいのはエサがバラけすぎること



で、へら鮒を遠ざけてしまうこと。いい感じに釣っていたのに急にアタリがなくなつた場合などは、これが考えられます。エサを小さくしたり、丸めて付けたりしてへら鮒が近づくかを確認しましょう。もしこれで近づかない場合は、それだけ食いが渋い、へら鮒の活性が低い証拠。つまり、へら鮒がエサに近づいて



こないで、下ハリスを長くして、こちら側から魚にアプローチするようになります。

バラケを持たせて釣れない場合は、抜き系の釣りになります。この抜き系は言葉どおりバラケエサを抜いて釣るといふ意

ウドンセットの浅ダナ釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

くわせエサは「力玉」や「感嘆」を使用します。一番重要なのは、ハリから取れにくいこと。次にアタリがハコで意識しながら、使い分けてください。



味ですが、着水してすぐ抜く〜1度ナジませてすぐ抜くまでその範囲は広いです。やみくもにエサを抜けば釣れるほどあくはないのが現状です。で、少しずつ釣りを合わせていくことが求められます。

まずは、バラケエサを1度ナジませてすぐに抜くからスタートします。ハリから抜けた粒子に反応したへら鯛が、その粒子と同調したくわせエサを吸い込むのです。この釣り方の場合、バラケエサを1度ナジませていきますので、タナにバラケエサが届き、比較的タナを意識した安定した釣りが可能です。

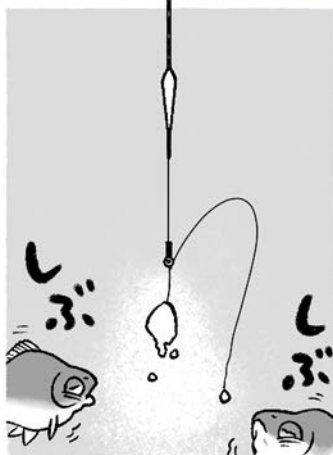
これでアタリがでない場合、少しずつエサを抜く位置をタナより上にしていきます。これは抜けた粒子に近づくタイミンが遅いので、少し早く抜くことでへら鯛が近く時間を調整するのです。できることなら、3目盛りナジんで抜く、次

抜き



洗いときほどバラケエサに近づかないので、抜く位置が上層になる。

持たせ



洗いときほどバラケエサに近づかないので、ハリスが長くなる。

に2目盛りナジんで抜く、続いて1目盛りなジんで抜くとコントロールドできれば、どのパターンでアタリがしやすいかの判断もできます。

もうひとつ、へら鯛が近づくとタイミングに合わせる方法として、下バリの重さを調整します。ハリの重さを変えるとアタリが増えることもありますので、色々お試しください。

●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 cc、「セットガン」100 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて5～10分放置。そこに「セットアップ」200 cc、「BBフラッシュ」200 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの3分の1ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ちして、ナジミ幅がでるかを確認。ナジミ幅が少ないときは、エサ付けの圧を強くしてエサ付けする。タナへエサを届けることが肝心なので、ナジんですぐバラケが抜けないように注意したい。抜けが早いときは、水で濡らした手でエサを攪拌するように混ぜて粘りをだしてエサ持ちをよくする。

●ブレンドのアレンジ!!

ブレンドのコンセプトは必ずエサが持つことなので、バラケ性の強いエサを「BBフラッシュ」でまとめている。なのでエサ付けが強い人は持ちすぎることがあるかもしれない。そういう場合は、「BBフラッシュ」の量を100～150 ccに調整してみよう。

「粒戦」100 cc+「とろスイミー」50 cc+
「セットガン」100 cc+水200 cc+
「セットアップ」200 cc+
「BBフラッシュ」100～150 cc

●エサの大きさ

実寸大



ウドンセットの浅ダナ釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「セットガン」100 cc+

水 200 cc+

「セットアップ」200 cc+

「BB フラッシュ」200 cc



+



+



+



+



+



●作り方

「粒戦」100 cc、「粒戦細粒」50 cc、「サナギパワー」100 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて5～10分放置。そこに「セット専用バラケ」200 cc、「軽麩」200 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの3分の1ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ちしてみよう。抜き系とはいってもいきなりタナより上から抜いてしまうことはしない。いったんはタナへエサを届けたいのでエサの重さでナジミ幅をだし、すぐに抜けるイメージで使いたい。その後、状況に合わせてエサ付けの圧を変えたり、手水でエサの硬さを調整してナジミ幅のコントロールをしていく。

●ブレンドのアレンジ!!

抜き系とはいえ、いったんナジミを入れてから抜けるようにしたブレンド。より抜けをよくしたいときはエサをまとめている「軽麩」の量を減らしてみよう。バラケ性が強まり、エサが抜けるタイミングが早くなる。

●エサの大きさ

実寸大



「粒戦」100 cc+「粒戦細粒」50 cc+
「サナギパワー」100 cc+水200 cc+
「セット専用バラケ」200 cc+
「軽麩」100～150 cc

ウドンセットの浅ダナ釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

「サナギパワー」100 cc+

水 200 cc+

「セット専用バラケ」200 cc+

「軽麩」200 cc



+



+



+



+



+



ウドンセットのチョー
チン釣りは、多くの釣
り人が好む釣り方であり、
色々と研究され複雑かつ
むずかしい釣り方と思わ
れるかもしれませんが。ま
た、近年ではサオ先を
持ち上げるようにしてバ
ラケエサのバラけを促進
させるしゃくりやくわせ
エサを動かす縦サソイな
ど、ロッド操作によるア
クシオンをくわえるのが
主流です。

チョーチンセットでど
うしてよいか分からない
と悩む方には、エサを持
たせる釣りから始め、そ
こから正解の釣り方を
探っていく方法をおすす
めします。

まず持たせ系のバラケ
ブレンドから始めます。
ウキのトップ先端まで、
あるいはトップが沈没す
るぐらいまでしっかりとナ

ジませます。そこからサ
オ先を持ち上げるように
しゃくりを入れます。こ
のしゃくりでバラけが促
進されるのでへら鮒を寄
せることになります。こ
のしゃくりを1回2回と
入れてみてアタリがでる
タイミングを探ります。
たとえば3回しゃくって
アタつたとします。これ
で釣れるならまずはこの
3回しゃくりが正解なの
かを何度か確かめて確認
します。

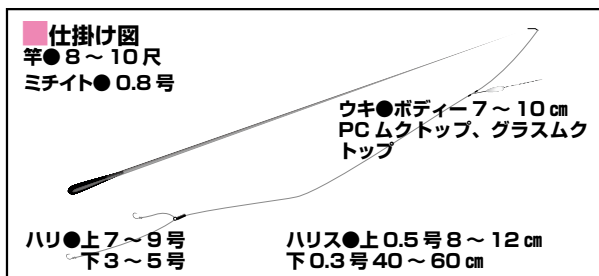
このしゃくりの回数が
少ないほどエサが持つて
いる状態ですので、こう
いう場合は、必ずエサを
持たせることを心がけま
す。何度かしゃくってバ
ラケエサが少なくなつて
からアタるようなら抜き
系の釣りにシフトしま
す。

このようにバラケエサ



が持つているときにアタ
るのか、抜けてからアタ
るのか、ここを見極めな
いと釣り方を間違つてし
まいます。

抜き系の釣りとはいっ
てもチョーチン釣りの場
合は、水深がありますの
で、よほどの場合でない
かぎり、水面直下から
抜けるようなバラケエ
サは禁物です。浅ダナと
同様に、少しバラケエサ



を持たせるところからは
じめ、徐々に持たせ具合
を調整します。ちよつと
持つぐらいがいいときも
あれば、持たせてすぐ抜
ける、逆にほとんど持た
ないほうがいいなど、そ
の日によってパターンは
様々です。この部分が抜

ウドンセットのチョーチン釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

くわせエサは「力玉大粒」や「力玉」を使用します。くわせエサの大ききにもあり口とよいでしょう。



き系の釣りの難しさです。また、抜きとはいつでも大きく拡がるのではなく、縦方向に狭くバラけるようにするのがポイントです。

抜き系の釣りは、大食いが多い、活性が低いときの釣りです。拡がりすぎるバラケエサではへら鯛を遠巻きにしています。これではエサをいくら打ったとしてもなかなかアタリにつながりません。バラケの粒子でウキ下に細い筒状の煙幕

を作る、そんなイメージを持ってください。そしてこの煙幕（バラけた粒子）に近づいてきたへら鯛にくわせエサを吸い込ませます。ですから食いが渋いときほど、軽くくわせ、それにもなって軽い（小さい）ハリが求められます。くわせエサの種類やハリサイズの違いだけでアタリの有無が大きく変わることもありますので、この部分は色々試してみるといいでしょう。

バラケエサをしっかり持たせてしゃくる。何回しゃくってアタるかを確認。これがヒットパターンになる。



抜き系の場合、ウキ下に筒状のバラケの煙幕を作るイメージ。横方向へ拡がりすぎるのはNG。



●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 cc、「サナギパワー」100 ccに水150 ccを注いでかき混ぜて吸水のために放置。エサボウルを揺らしてしてもエサが動かない状態になったら「段底」200 cc、「セット専用バラケ」100 cc、「BBフラッシュ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

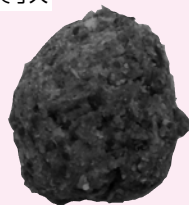
できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けにして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ちして、トップ先端までしっかりウキがナジむかを確認。ナジミが少ないときは、エサ付けの圧を強くしてエサ付ける。エサをナジませるのはタナへエサを届けるためなので、ナジんですぐ抜けてしまうような場合は、数回ほどボウルにこするように練りを加える。

●ブレンドのアレンジ!!

誰が使ってもしっかり持つブレンド。まとまりがよいのが特徴だが、持つだけでは反応が悪いときは、エサ付けの圧を緩くして軽く使いたい。こういう場面では、圧調整でのエサ使いがしやすい「セットアップ」の出番。「段底」と入れ替えたブレンドを試してみよう。

●エサの大きさ

実寸大



「粒戦」100 cc+「とろスイミー」50 cc+
「サナギパワー」100 cc+水150 cc+
「セットアップ」200 cc+
「セット専用バラケ」100 cc+「BBフラッシュ」100 cc

ウドンセットのチョーチン釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「サナギパワー」100 cc+

水 150 cc+

「段底」200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc+

「BB フラッシュ」100 cc



+



+



+



+



+



+



●作り方

「粒戦」100 cc、「粒戦細粒」50 cc、「サナギパワー」100 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて吸水のために放置。エサボウルを揺らしてしてもエサが動かない状態になったら「セット専用バラケ」100 cc、「セットアップ」100 cc、「BBフラッシュ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ちして、ウキにナジミがでるかでないかを確認。抜き系とはいえ、タナ近くまでエサが持つようにしたいので、1目盛りほどナジむくらいでよい。これを基準にして、早く抜いたほうがよいのか、少し持たせ気味にしたほうが釣れるのかを探る。この調整はエサ付けの圧で行なう。そのために「セットアップ」をブレンドしている。

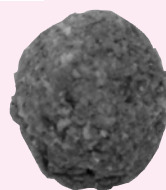
●ブレンドのアレンジ!!

エサが上手くまとめられない、圧調整でのエサ持ちのコントロールが上手くできないときは「セットアップ」の量を増やしてみよう。「セットアップ」にはエサ持ちのコントロールが容易になる特性があるので、それを有効利用する。

**「粒戦」100 cc+「粒戦細粒」50 cc+
「サナギパワー」100 cc+水200 cc+
「セット専用バラケ」100 cc+
「セットアップ」150 cc+「浅ダナー本」100 cc**

●エサの大きさ

実寸大



ウドンセットのチョーチン釣り②

抜き系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「粒戦細粒」50 cc+

「サナギパワー」100 cc+

水 200 cc+

「セット専用バラケ」100 cc+

「セットアップ」100 cc+

「浅ダナー一本」100 cc



段差の底釣りは、へら鮒の活性が落ちる厳寒期や春先の食いが渋いときに一番が多い釣り方です。宙釣りではなかなかアタリがでないときなど、ポツポツながらも確実に釣果を伸ばせるので、冬場の例会などでも活躍してくれます。基本的には渋い時合の釣り方ですので、数多く釣るというよりは、確実に1枚1枚を釣っていく、ヒット率重視の釣りです。


底もしくは底近くにいるへら鮒を集魚して釣る釣り方ですので、まずはへら鮒を寄せることを重視します。そのためにはバラケエサをしつかりナジませることが一番です。極端にいえば、タナまでの落下中のバラケはゼロで、バラケエサがぶら下がってからバラけ始

める。そんなイメージで釣っていきます。

ウキの動きでいえば、バラケの重さでウキがトップいっぱいになじみ、そこからバラケエサが少しずつバラけるにつれてウキが少しづつ上がってくる。バラケエサが完全に抜けてエサ落ち目盛りがでてからアタリがでるのが基本です。イトズレやスレアタリに手をださないためにも、最もヒット率が高いバラケエサが抜けてくわせエサのウドンだけになった状態からのアタリを狙っていきましょう。

なかでも、エサ落ち目盛りからさらにもう1目盛り水面にあがる動きのあとでアタリは100%といってもいいぐらいの食いアタリです。できるだけこのアタ

仕掛け図
竿●8～18尺
ミチイト●0.6～0.8号



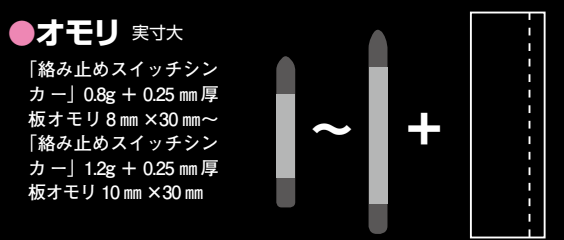
ウキ●ボディー 10～17cm
細パイプトップ、PCムクトップ、グラスムクトップ

ハリス●
上0.5号 10～15cm
下0.3～0.4号 45～60cm

ハリ●上6～7号、下2～4号

リがでるようにします。そのためにはタナの微調整やくわせエサの選択など、ちょっとしたことでアタリの有無が変わりますので、エサ落ち目盛りがでてからアタリにつながるらないときは、色々と試してください。

オモリ 実寸大



「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25 mm厚
板オモリ 8 mm × 30 mm
「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25 mm厚
板オモリ 10 mm × 30 mm

バラケエサへの反応が強い場合、必要以上にウキが動いてしまい釣りにくいことがあります。そのような場合は、バラケエサに手水を打ち、エサのバラケ性を抑えるようにします。このとき、エサが軟らかくなることで

段差の底釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

くわせエサは確実に底に付いていることが大前提なので、底から離れにくい重さのある「魚信」や「特選わらび彩」を使うのが基本です。ただ食いが渋いときや、底の状態によっては軽いほうがアタリがでるときもあるので、「感嘆」や「力玉大粒」、なども用意しておきましょう。



ナジミが悪くなるかもしれない。タナまでエサが落ちていない証拠で、これではこの釣りの致命傷になりかねない。ウワズリを招くことになり、丁寧にエサを付ける、圧を強くするなど、対応でエサをしつかりナジませるようになります。

さらに、エサを軟らかく少し粘る方向にして、タナまでしつかり持たせてから早めにバラケエサが抜け落ちる、抜き系の釣り方もバラケエサへの反応が強いときに有効です。早めに抜けることで底にバラケエサを溜め、へら鮒を呼び込むことができるところです。ただし、この抜き系の釣りも、いったんウキをナジ

ませるといふ点だけは厳守しないと、余計にウワズリを招きますので、注意が必要です。この釣り方でアタリを増やすテクニクに、置き直し」というものがあります。これはバラケエサが抜けてくわせエサだけになった状態からアタリを狙う。がでないときに、サオ先を持ち上げてくわせエサを置き直す方法です。これは、くわせエサが食いにくい状態になっているのを置き直すことで修正してアタリをだすのです。これはかなり効果がありますので、ぜひ試してください。



●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて吸水のために放置。「粒戦」がふやけたら「段底」200 cc、「セットアップ」200 cc、「BBフラッシュ」200 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。まずはそのまま丸めてエサ打ちして、トップ先端までしっかりウキがナジむかを確認。ナジミが少ないときは、エサ付けの圧を強くしてエサ付けする。ナジんだウキがゆっくりあがってくるようならOK。すぐにエサが抜けてウキのあがり早いときは、手水を打ってエサを攪拌するように混ぜて粘りをだす。

●ブレンドのアレンジ!!

ブレンドの特徴はしっかり持つこと。エサをまとめる性能が強いエサで構成されているが、少し抜けやすく、それでいて下方向のバラケ性を強調したいなら「とろスイミー」を「粒戦細粒」に変更してみよう。

●エサの大きさ

実寸大



「粒戦」100 cc+「粒戦細粒」50 cc+
水200 cc+「段底」200 cc+
「セットアップ」200 cc+「BBフラッシュ」200 cc

段差の底釣り①

持たせ系バラケ

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

水 200 cc+

「段底」200 cc+

「セットアップ」200 cc+

「BB フラッシュ」200 cc



●作り方

「ダンゴの底釣り夏」50 cc、「粒戦細粒」150 cc、「段底」200 ccに水200 ccを注いでかき混ぜて吸水のためにしばらく放置。5分ほど吸水させたら「BBフラッシュ」100 ccを入れてよくかき混ぜる。さらに、下から掘り起こすように混ぜ合わせ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサの半分ほどを別のボウルに小分けして使う。まずは丁寧に丸めてエサ打ちして、ウキにしっかりナジミがでるかを確認。抜き系だが、トップいっぱいナジミ幅がでるようにし、ナジんだところで塊ごと抜けるようなイメージにする。抜けが悪いときは、手水と攪拌でエサ持ちと抜け具合を調整するが、攪拌によるエサの粘りを利用するので、練り込まないようにする。

●ブレンドのアレンジ!!

バラケ性を抑えてタナまで持ち、重さと水分量で抜けさせるイメージのブレンド。もしこのブレンドで反応が悪いときは「BBフラッシュ」を「軽麩」に変えてみよう。手水による調整でエサが重くなるので、軽さで反応を探ってみます。

「ダンゴの底釣り夏」50 cc+
「粒戦細粒」150 cc+
「段底」200 cc+
水200 cc+ 「軽麩」100 cc

●エサの大きさ

実寸大



段差の底釣り②

置きバラケ

●バラケブレンド

「ダンゴの底釣り夏」50 cc+

「粒戦細粒」150 cc+

「段底」200 cc+

水 200 cc+

「BB フラッシュ」100 cc



+



+



+



+



バランスの底釣りは一年中楽しめる釣り方ですが、宙層のへら鮒の活性が落ち着く秋以降、翌年の春ぐらいまでがベストシーズンといえます。また、秋の新べら放流シーズンとも重なり、放流後しばらくして底につく新べらを狙うのも楽しみのひとつです。

水温が高い時期なら両ダンゴやペレ底、水温が下がってくるとグルテンセットや両グルテンが使用エサになりますが、日並みによっても反応するエサが違いますので、ひとつとりのエサを用意しておくことをオススメします。

底釣りは文字どおりエサを底に着けて釣ります。したがってある程度底、または底近くにへら鮒がいることが条件にな

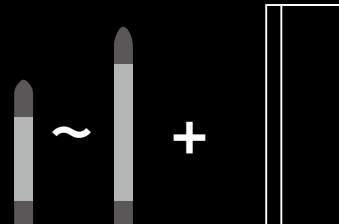
ります。池によって底釣りの実績ポイントがあったり、浅いほうが釣れる、深いほうが釣れる、手前（竿なり）や沖といった傾向などがあったりしますので、できるだけそういう情報を事前に知っておくことも重要です。

実釣においては、タナとエサ、そしてアタリを取り方の3点がポイントになります。

まずタナですが、これは釣りを始める前にタナ取りを確実にこなすことです。タナの取り方には色々な方法がありますが、タナ取りに自信がない、苦手という方は、ウキにフロートをつけて重さのあるタナ取りゴムの水深を測る方法をすすめます。そして、確実にエサが底へ着くようにするため、基準となる水深

オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」0.8g + 0.25mm厚板オモリ 8mm × 30mm ~ 「絡み止めスイッチシンカー」1.2g + 0.25mm厚板オモリ 10mm × 30mm



にエサ落ち目盛りを合わせる上バリトントンのタナから3cmほどズラした（深くした）タナ設定からスタートすることをおすすめします。

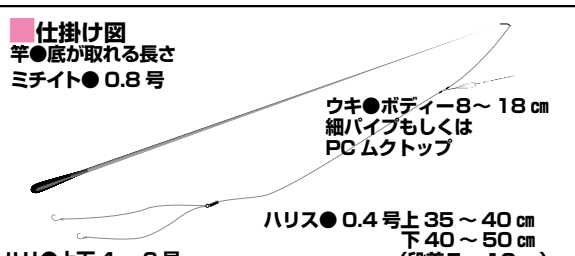
実際にエサを付けて振り込んだ際、グルテンセットなら3〜4目盛

仕掛け図
竿●底が取れる長さ
ミチイト●0.8号

ウキ●ボディー8〜18cm
細パイプもしくはPCムクトップ

ハリス●0.4号上35〜40cm
下40〜50cm
(段差5〜10cm)

ハリ●上下4〜6号



り、両グルテンなら2〜3目盛りのナジミ幅がでるぐらいが基準です。これより深くナジんだ場合はさらにタナを深くし、逆にナジまない（エサは持つていることが条件）場合は浅くします。続いてエサですが、大

バランスの底釣り

釣り方のコツ

きさとタッチを探ります。まずはしっかりとナジミがでるまで押し練りを加えていきます。そこからアタリがでる大きさとタッチを探していきます。とくにグルテンエサは、膨らみますので極端に大きなエサはNGです。

また、グルテンは持ちがよいと思っている方も多いとは思いますが、グルテン繊維の少ないタイプなどは意外とエサは持たないことが多いです。硬さで持たせて釣れるときはいいですが、硬いエサではカラツンなどが多い場合はエサを軟らかくしていく必要があります。しかし、エサを軟らかくするとエサ持ちが悪くなります。こういうときはグルテン繊維が多いものに作り替えてみるこ

とも必要です。

さらにグルテンエサはその種類によってアタリの有無に大きな差があるので、タイプの違うものを数種類用意しておきましょう。

最後にアタリの取り方ですが、一番確実なのは、ナジんだウキが上がってきてエサ落ち目盛りがでてからのカチツとした小さく強いアタリです。このアタリが基本になります。ただ、このアタリだけをねらっていると、待ち気味の釣りになりリズムが悪くなることもあります。少しでも早いタイミングでアタリをだすようにするには、エサを小さく、軟らかくします。ただし、エサの調整をしたときでもナジミ幅は同じようにしてください。

ナジミが少なくなるようではエサが持つていないことになります。

この3点の対応に加えて、ちよつとしたタックルセッティングの調整をすれば底釣りは釣れます。ウキの動きが多すぎ

て複雑になるときはハリを短く。逆に動きが少ないときはハリスを長くします。また、食いアタリがでにくいときはハリを小さくしてみてください。渋いときほど小さいハリが有効になります。



●くわせブレンド

「グルテン $\alpha 21$ 」20 cc +
「わたグル」20 cc +
水 50 cc



+



+



●作り方

「グルテン $\alpha 21$ 」20 cc、「わたグル」20 ccをグルテンボウルに入れて粉の状態混ぜ合わせる。そこに水 50 ccを注いでしっかりかき混ぜる。固まりだしたらボウルの片隅に寄せて吸水のために数分放置してから使う。

●使い方

できあがったエサをグルテンボウルの中でひっくり返してから使う。3分の1程度を取り分け、押し練りをしてエアーを抜き、それを丸めてエサ付け。これでエサ持ちが悪いようならさらに押し練りを加える。食いアタリがでにくい、空振りが目立つ場合は、手水と押し練りでエサを軟らかくする。

●エサの大きさ

実寸大



バランスの底釣り①

グルテンセット

●パラケブレンド

「粒戦細粒」50 cc+
「ダンゴの底釣り冬」100 cc+
水 100 cc



+



+



●作り方

「粒戦細粒」50 cc、「ダンゴの底釣り冬」100 ccをボウルに入れて粉の状態
で混ぜ合わせる。そこに水 100 ccを注いでしっかりかき混ぜる。ボウルの
片隅に寄せて吸水のために数分放置してから使う。

●使い方

できあがったエサの4分の1程度を取り分け、
押し練りをしてエアーを抜き、それを丸めてエサ
付け。これでエサ持ちが悪いようならさらに押し
練りを加える。食いアタリがでにくい、空振りが
目立つ場合は、手水と押し練りでエサを軟らかく
する。このとき、エサ持ちが悪くならないように
注意しよう。

●エサの大きさ

実寸大

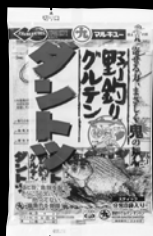


バランスの底釣り②

両グルテン

●エサブレンド

「野釣りグルテナントツ」1分包+
「凄グル」15 cc+
水 50 cc



+



+



●作り方

「野釣りグルテナントツ」1分包、「凄グル」15 ccをグルテンボウルに入れて粉の状態混ぜ合わせる。そこに水 50 ccを注いでしっかりかき混ぜる。固まりだしたらボウルの片隅に寄せて吸水のために数分放置してから使う。

●使い方

できあがったエサをグルテンボウルの中でひっくり返してから使う。3分の1程度を取り分け、押し練りをしてエアーを抜き、それを丸めてエサ付け。これでエサ持ちが悪いようならさらに押し練りを加える。食いアタリがでにくい、空振りが目立つ場合は、手水と押し練りでエサを軟らかくする。

●エサの大きさ

実寸大



●作り方

「段差バラケ」200 cc、「バラケマッハ」200 cc、「浅ダナー本」100 cc、「BBフラッシュ」100 ccをボウルに入れ、粉の状態で軽くかき混ぜる。そこへ水100 ccを注いで、指を立てて大きくかき混ぜ、ムラのない仕上がりにする。

●使い方

できあがったエサをそのまま丸めてエサ打ちして、ナジミ幅がしっかりできるかを確認（トップ先端ぐらゐまでナジませる）。ナジミ幅が少ないときは、エサ付けの圧を強くしてエサ付けする。深くナジんでからしばらくナジミ続けるぐらいのエサ持ちが目安。エサ持ちが悪い場合は、手水を打って攪拌をして素材の粘りをだし、エサ持ちをよくする。

●ブレンドの調整!!

渋い厳寒期を想定した釣りなので、バラケエサをしっかり持たせることで、ゆっくり近づく低活性のへら鮎に合わせたブレンド。深くナジませてウキをじっとさせてアタリがでるならOKだが、エサ付けをあまくして抜けを早くしてアタる場合、エサの開きを早くしたほうがよい。そんな場合も想定して、あらかじめ「粒戦」を別作りしておき、これを使っているエサに追い足す。

あらかじめ「粒戦」を別作りしておく

「粒戦」100 cc+水70 cc

エサが開くほうがよい場合は別作りの「粒戦」を半分ほど、使っているエサに追い足す

●エサの大きさ

実寸大



ウドンセットの沖宙釣り

●バラケブレンド

「**段差バラケ**」200 cc+
「**バラケマツハ**」200 cc+
「**浅ダナー本**」100 cc+
「**BB フラッシュ**」100 cc+
水 100 cc+



+



+



+



+



ウドンセットの沖宙釣り

釣り方のコツ

厳寒期になり、短竿ではなかなかアタリがでない場面でも有効な釣り方が、ウドンセットの沖宙釣りです。沖に着く比較的食い気のあるへら鮒がねらえ、放流された新べらも混じります。それほど釣果がでない時期にポツポツながらも良型が混じりながら釣れるので、釣果的にも期待が持てるところが魅力です。

この釣り方は竿が長くなるので、バラケのコントロールが難しくなります。ですから基本は抜き系ではなく、しっかりバラケをナジませていく釣りです。

打ち始めは、バラケエサを付けてトップ先端近くまでナジむようにします。もしナジまない場合、エサ付けの圧を強める、エサの一部に押し練

りを加えるなどして、とにかく深くナジむようにしてください。そして、この深くナジんだ状態をしばらくキープするようにします。これは、渋い時期の動きの遅いへら鮒に対応するために、開きを抑えたバラケをしつかりナジませるところからスタートします。

魚が寄ってくると、次にナジミ幅が少なくなったり、ナジんでからバラケが早めに抜けるようになりまます。早めにバラケエサが抜けてもア

たる場合は、ある程度食い気のあるへら鮒がいる証拠。このパターンが続くようなら、そこ

その活性があると判断して、ハリスを短めにしておいて倒れ込みのアタリもねらっていきます。

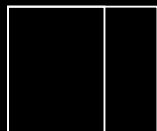
逆に、バラケが早めに抜けてしまうとアタらないうときは、渋い状況です。ハリスは長めになりまます。渋ければ渋いほど、ウキをしつかりナジませてじつとさせて釣ります。アタリ数は少なく、アタリがでるタイミングも遅くなりますが、アタつたときはヒットするぐらいの感覚です。

●くわせエサ

くわせエサは軽さを重視して「感嘆」がメインですが、場合によっては重たい場合もあります。



●オモリ 実寸大

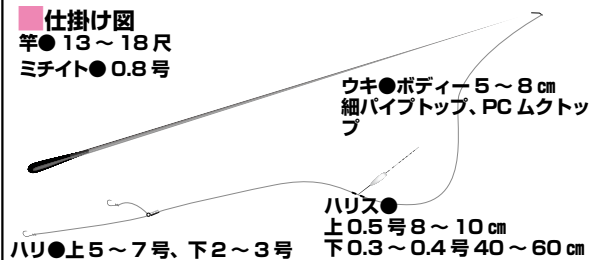


0.25 mm厚
板オモリ
17 mm × 13 mm ~
17 mm × 20 mm

■仕掛け図

竿●13~18尺
ミチイト●0.8号

ウキ●ボディ5~8cm
細パイプトップ、PCムクトップ



ハリス●
上0.5号8~10cm
下0.3~0.4号40~60cm

ハリ●上5~7号、下2~3号

グルテンセットのチョーチン釣り

釣り方のコツ

グルテンセットのチョーチン釣りは、新べら放流時期や春先、特に野釣り場（山上湖や準山上湖）で有効な釣り方です。放流直後で新べらが溜まっているような場合は、両グルテンでの数釣りのほうが釣れますが、放流からしばらく経過した頃、また、放流後の口を使わなかった新べらが春先になって食いが立つことがあります、そういうときこそ、この釣り方の出番です。

釣り方の基本はバラケエサをしつかりナジませてへら鮎を寄せ、くわせエサのグルテンを食わせること。ですから、バラケエサがナジまない、ナジんでもすぐ抜けてしまいうのはNGです。

たとえ、魚が寄ってきたとしてもしつかりナジませる

意識は同じです。魚が寄ることナジミが浅くなり、ときにはこれで早いタイミングのアタリで釣れることもありすが、だからといってそればかりを狙っているのは釣りが崩れてしまいます。

また、魚が多く寄る状況では、高い位置から止めが入りくわせのグルテンの倒れ込みで釣れ続くこともあります。好時合のときは、魚に任せでどんどん釣っていきませんが、ちょっとでもおか

しいな、うまく釣れなくなったなと感じたときは、基本のしつかりナジませることを心がけてください。基本を忠実に守りながら、ときに自然とエサがあまくなったことで早いアタリもでるぐらいなイメージで釣っていきましよう。

この釣り方は、山上湖や準山上湖など、水深のある野釣り場で行なうことが多い釣りですので、おのずと深いタナをねらう場面が増えます。そのため、深いタナまでしつかりエサを持たせるには、当然、エサ持ち重視のブレンドになります。

バラケエサには「粘麩」を入れることで、エサ持ちと重さが強調され、深いタナまでのエサ持ちを容易に実現してくれま

す。また、くわせエサのグルテンも同様にしつかり持つことが重要になります。グルテン量が多くエサ持ちのよい「グルテンa21」が最適。このグルテンは軽さもあるので、くわせエサとしての性能を十二分に発揮してくれます。

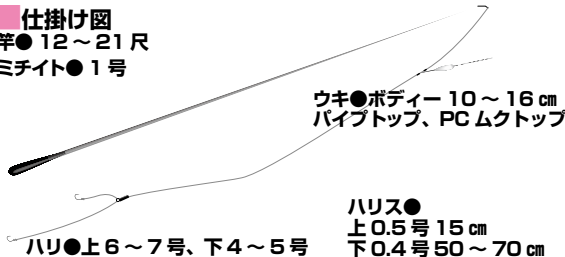
「絡み止めスイッチシンカー」
0.8～1.6g

●オモリ 実寸大

+

0.25mm厚板オモリ
17mm×27mm

■仕掛け図
竿●12～21尺
ミチイト●1号



●くわせブレンド

「グルテン α21」50 cc + 水 60 cc



+



●エサの大きさ

実寸大



●作り方・使い方

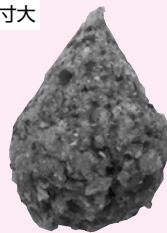
「グルテン α21」50 ccをグルテンボウルに入れて水 60 ccを注いでしっかりかき混ぜる。固まりだしたらボウルの片隅に寄せて吸水のために数分放置。これをひっくり返して端からつまんで丸めて使う。エサ持ちが悪いときは手揉みを加えてエサ付けする。

●使い方

できあがったエサの半分程度を取り分け、押し練りをしてエアーを抜き、それを丸めてエサ付け。これでエサ持ちが悪いようならさらに押し練りを加える。トップ先端ぐらいまでしっかりナジむのが目安。ウキの動きが少ないときは大きめ、逆に動きすぎるときは少し小さくエサ付けして調整する。

●エサの大きさ

実寸大



グルテンセットのチョーチン釣り

●パラケブレンド

「粘麩」100 cc+

「段差バラケ」400 cc+

「グルバラ」200 cc+

水 200 cc+

「バラケマツハ」200 cc



+



+



+

●作り方

「粘麩」100 cc、「段差バラケ」400 cc、「グルバラ」200 ccをボウルに入れて粉の状態では混ぜ合わせる。そこに水 200 ccを注いでしっかりかき混ぜる。吸水したところで「バラケマツハ」200 ccを入れ、大きくかき混ぜて均一に仕上がるようにする。



+



必釣の定番ブレンド!!

●両ダンゴの底釣り②必釣ペレ底ブレンド!

「ペレ道」1袋+
「つなぎグルテン」1袋



上記をミックス
したもの **200 cc**
+水 100 cc

「ペレ道」に「つなぎグルテン」を半分ほど入れて袋を上下左右に振って混ぜる。その後、残りの半分を入れてさらに振って混ぜる。

●両グルテンの底釣り②新べらにも対応する軽量系

「グルテン四季」25 cc+
「わたグル」25 cc+
水 60 cc



+



+



困ったときのお役立ち！

●両ダンゴの底釣り①最強鉄板ブレンド！

「ダンゴの底釣り夏」50 cc＋
「ダンゴの底釣り冬」50 cc＋
「バラケマツハ」50 cc＋
水 70 cc



●両グルテンの底釣り①深い水深に対応する比重系

「いもグルテン」25 cc＋
「グルテン α21」25 cc＋
水 60 cc



簡単お手軽ブレンド!!

●ウドンセットの浅ダナ釣りバラケブレンド

「粒戦」 50 cc+

「セット専用バラケ」 200 cc+

「セットアップ」 200 cc+

水 100 cc



●ウドンセットのチョーテン釣りバラケブレンド

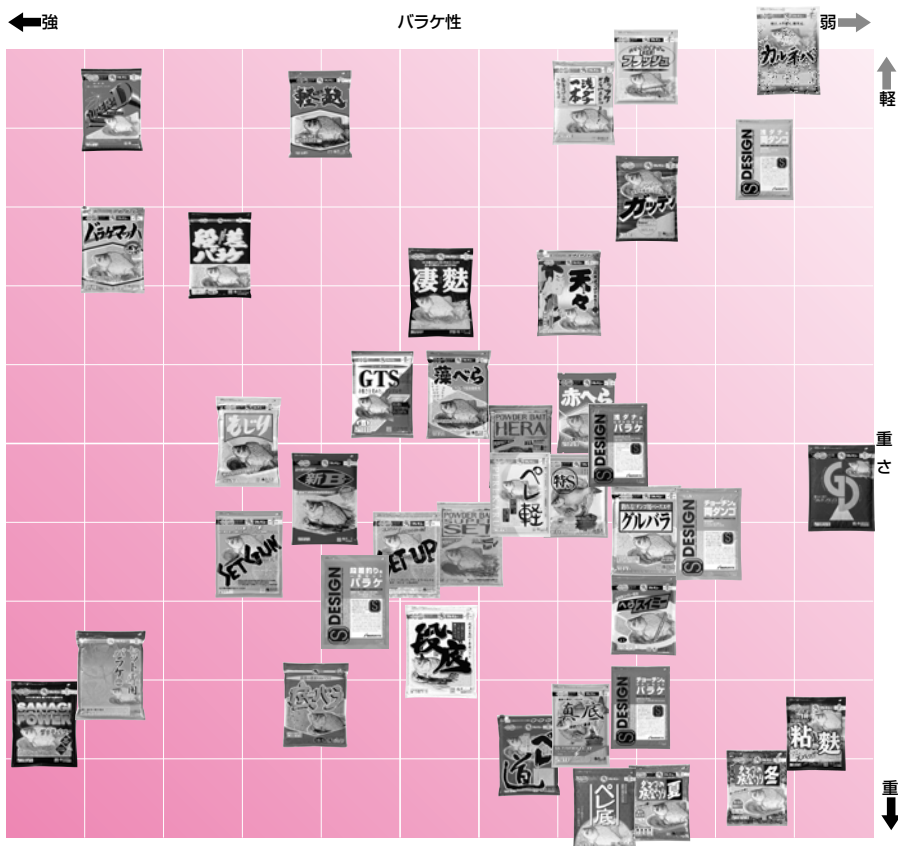
「S レッド」 600 cc+

「粒戦」 100 cc+

水 200 cc



魅系エサ性質表



※データは、標準水量を加え、単品使用の当社実測によるものです。
 釣り場の状況や作り方、使い方により異なる場合がありますので、目安としてお使いください。



●サナギパワー 450g (チャック袋)

ふんだんに配合された「さなぎ」がもたらす、圧倒的な寄せ力。ターゲットの視覚にアピールする、「さなぎ」を素材とした粗い粒子。強いアタリを導き、タナを落ち着かせる適度な重さ。比類ない集魚性とともに、バラケエサとしての本質的な性能を高いレベルで発揮します。

バラケの 本質を凝縮。